

抄録者想ふに日本では更新世の寒冷なりし時代の化石フロラなどは恐くはでまいと思ふ、寒冷なりし時代は植物の繁茂が悪くて、寒地植物のみであるから、化石となる材料が少ないので、間氷期のやうに繁茂した森林のありし時のみ木葉石とも澤山なるのである、寒冷なりし時代の植物は獨り現時の生化石なる高山植物の要素及其の現世分布の狀が之を代表するのである。(G. KOIDZUMI)

ブーランガー氏：亞細亞のイバラ屬，第二，(G. A. BOULENGER: — Revision des *Roses* d'Asie. Bull. Jour. Bot. Bruxelles, XIII. 1935. p. p. 165—266.)

Sect. Eglanteriae の *Pimpinelli-Suavifoliae*, *Orientalis*, *Alpinae-Vestitae* 等の各群の研究であつて、*Rosa morrisonesis* HAYATA は *Rosa Webbiana* WALL. に非常に近いものだと考へてゐる、萼片が少し大きいことや葉の鋸齒が少し鋭い位で別けられたものだから餘り異つたものではあるまい。(G. KOIDZUMI)

ツェクツォト氏：トルコブナの分布，第三紀北半球に分布せるフェロンハンノキはハンノキ近似品也，(H. CZECZOTT: — Distribution of *Fagus orientalis*, 1932; — What is *Fagus Feroniae*. in Acta Soc. Bot. Polon. XI. 1934. Suppl. p. p. 109—116.)

トルコブナ (*Fagus orientalis* LIPSKY.) は現世では黒海の西岸 Dobrudscha (Dobruja) に於て Donau 河岸に達し、Bulgaria, Macedonia, Greece, Asia minor, Northern Syria, Persia, Caucasus, Transcaucasia, Crimea 等に分布してゐるが、第三紀には Spain, France, Italy, Czechoslovakia, Greece, Caucasus に分布せしを以て地域はひろかつた。

歐洲、南滿、Alaska, Nevada 等に第三紀時代分布してゐた、*Fagus Feroniae* UNGER と稱するものは、實はブナにあらずしてフェロンハンノキである、**Alnus Feroniae** (UNGER) CZECZOTT は、現今東亞に産するハンノキ *Alnus japonica* (THUNB.) S. et Z. に最も近似せる種である。(G. KOIDZUMI)

ホルツタム氏：馬來半島の木生羊齒 (HOLTUM, R. E.: — The Tree-ferns of the Malay Peninsula, in Bull. Singapore Bot. Gard. VIII. 1935. p. p. 293—320, t. t. 29—36.)

氏は馬來半島の木生羊齒を研究して次の十六種が分布する事を明にせしが、木生羊齒の分類に於ては、葉柄基部の鱗毛の性質、葉柄上の棘其他の隆出突起物、色彩、鱗毛の性質等が重要な性狀を示すと云ふ、又氏は *Alsophila*, *Hemitelia* を *Cyathea* に合せり。*Cyathea latebrosa* COPEL. は Indo-Malayan に最も廣大なる分布をなし、

Dec. 1935.

237

Cyathea squamulata COPEL., *C. contaminans* COPEL., *C. glabra* COPEL. の三は馬來地方に廣大なる分布をなし、*C. Brunonis* WALL., *C. recommitata* COPEL. の二は馬來より Sumatra, Borneo に分布し、*C. obscura* COPEL., *C. Kingii* COPEL. の二は馬來より Sumatra に分布し、*C. alternans*, *C. Burbidgei*, *C. ampla*, *C. polypoda* の四は馬來より Borneo に分布し、*C. tripinnata* は馬來より Luzon, Borneo, Pulau, Tioman に分布し、*C. gigantea* はヒマラヤより馬來半島の南端に達し、殘餘の二種 *Cyathea obtusata* ROSENST., *Cyathea excavata* HOLTUM は馬來半島に特有のものである。(G. KOIDZUMI)

ゴルドン氏: Pitysiaceae (W. T. GORDON: — The genus *Pitys*, in Trans. Roy. Soc. Edinbg. 58, 1935. p. p. 279—311. t. t.)

従來 Cordaitales の一科と考へられし Pitysiaceae は *Pitys*, *Archaeopitys*, *Callixylon* の三屬より成り; *Callixylon* は上部泥盆世より下部石炭紀に分布し、他の二は下部石炭紀のものである、著者は *Pitys* を以て最も原的のものとし他の二屬は之より出しものと考ふ、解剖學上のみより見れば Pitysiaceae は Cordaitaceae よりは却て Araucariaceae に近縁を有し、一方羊齒狀裸子植物の Lyginopterideae に近縁を有す、之を以て見れば Araucariaceae は松柏類中にて最も古きものたるを首肯し得べし、最後に本科は Cordaitales のものに非ずして全く獨立の Pitysiales を設立すべしと云ふ。(G. KOIDZUMI)

矢部, 遠藤兩氏: — 熱河省産 *Schizolepis* (H. YABE et S. YENDO: — Strobilus of *Schizolepis* from the Lycopera beds of Jehol, in Proc. Imp. Acad. Jap. X. 1934. p. p. 658—660. fig. 1—3.)

滿洲熱河省の下部白堊より *Schizolepis* *Joholensis* YABE et YENDO n. sp. と *Czekanowskia rigida* HEER. を報告し、*Schizolepis* と *Czekanowskia* とは常によく相伴して化石に出るから、是は銀杏の如きもの、葉と円錐花穂とにあらざるなきかと云へり。(G. KOIDZUMI)

ラング, クックソン兩氏: — 濠太利志留利亞紀管束植物 (LANG, W. H. et COOKSON, I. C.: — On a flora including vascular land plants, associated with *Monograptus*, in rocks of Silurian age, from Victoria, Australia. in Phil. Trans. R. Soc. Lond. ser. B., 1935. 224, p. p. 421—449. 4 tab.)

上部志留利亞世は下部泥盆世、中部泥盆世と共に古生植物代の所謂泥盆紀を成すもので、上部泥盆世は全く下部石炭紀に入るべきものである、されば上部志留利亞世の陸生植物は下部泥盆世のものと大差ないは當然である、然るに今回兩氏は濠太利